

令和5・6年度堺市ごみ減量化推進員アンケート集計結果実施概要

I 実施概要

1 目的

堺市ごみ減量化推進員の地域ごとの活動及びごみの減量化・資源化への関心を把握し、今後の市政運営に活かすため。

2 調査対象

堺市自治連合協議会校区代表者 93 名

3 調査期間

令和7年3月7日 ～ 令和7年4月30日

4 調査方法

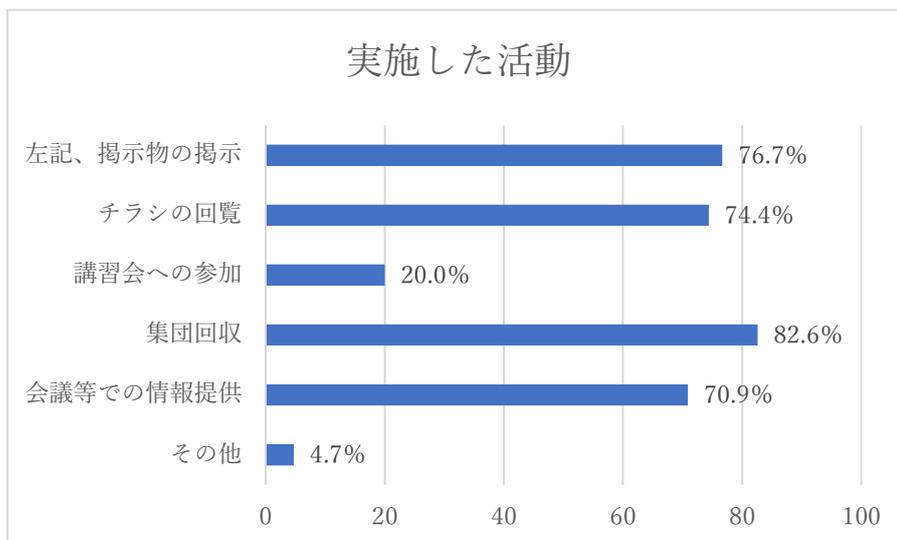
自治連合協議会各区定例会にてアンケート用紙を渡し、返信用封筒で回収

II 調査結果

活動内容について

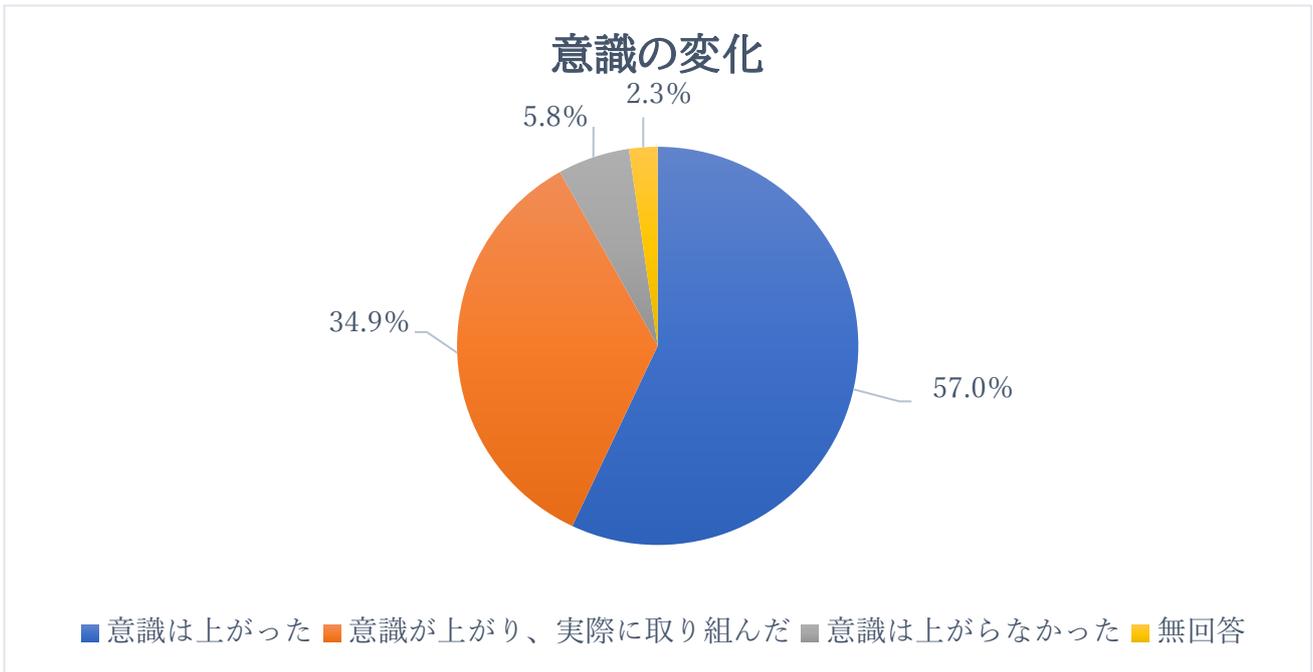
問1 実施した活動(複数回答可)

「集団回収(古紙・古布など)」の割合が82.6%と最も割合が高く、「左記、掲示物の展示」、「チラシの回覧・データ配信」、「会議等での情報提供」の割合も70%以上となった。



問 2 送付したチラシ・情報紙を読んでごみ減量化・リサイクルへの意識の変化について

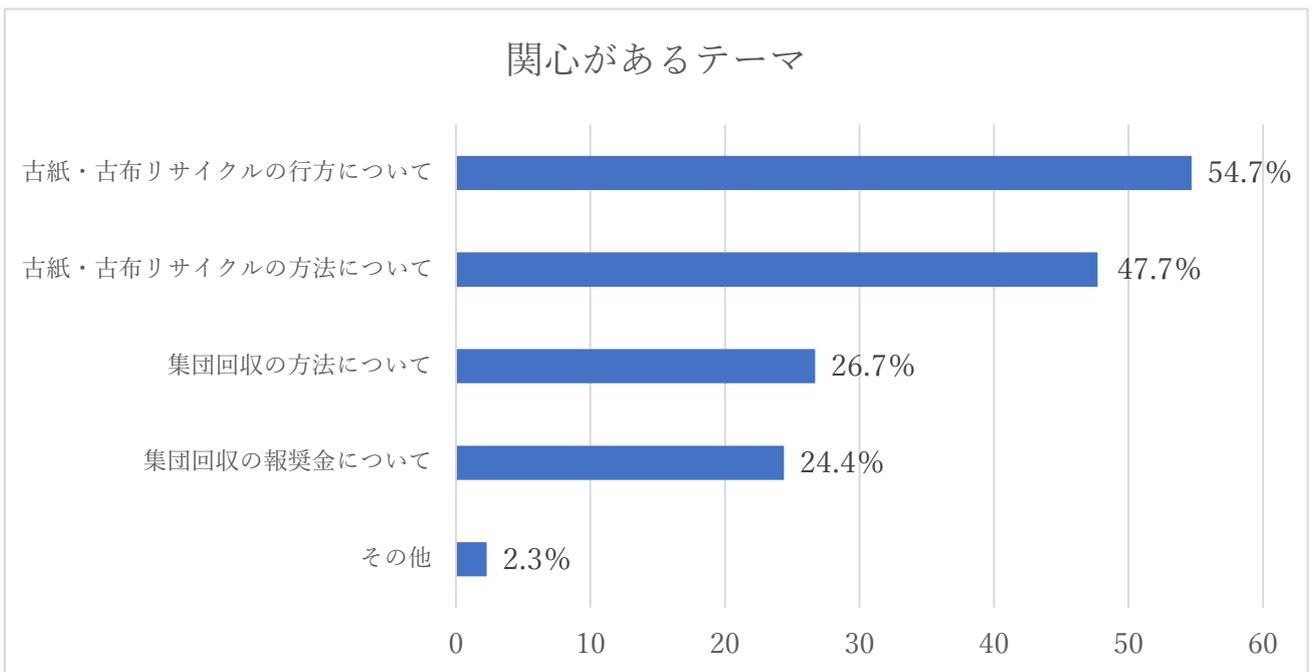
「意識が上がった」の割合が57.0%と最も高く、次いで「意識が上がり、実際に取り組んだ」の割合が34.9%であった。回答者の9割以上の意識が高まった。



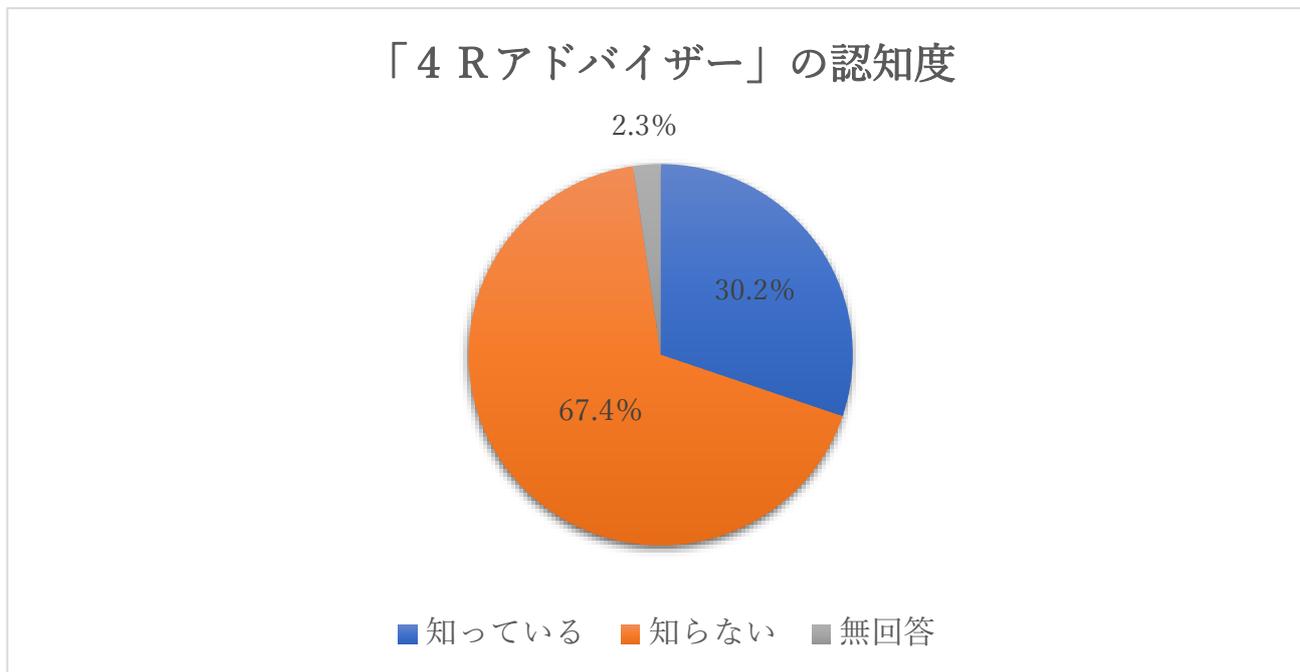
今後の活動アンケートについて

問 3 ごみ減量化推進員へ古紙・古布のリサイクルについて知っていただくために講習会の開催を検討しているが、どのようなテーマに関心があるか(複数回答可)

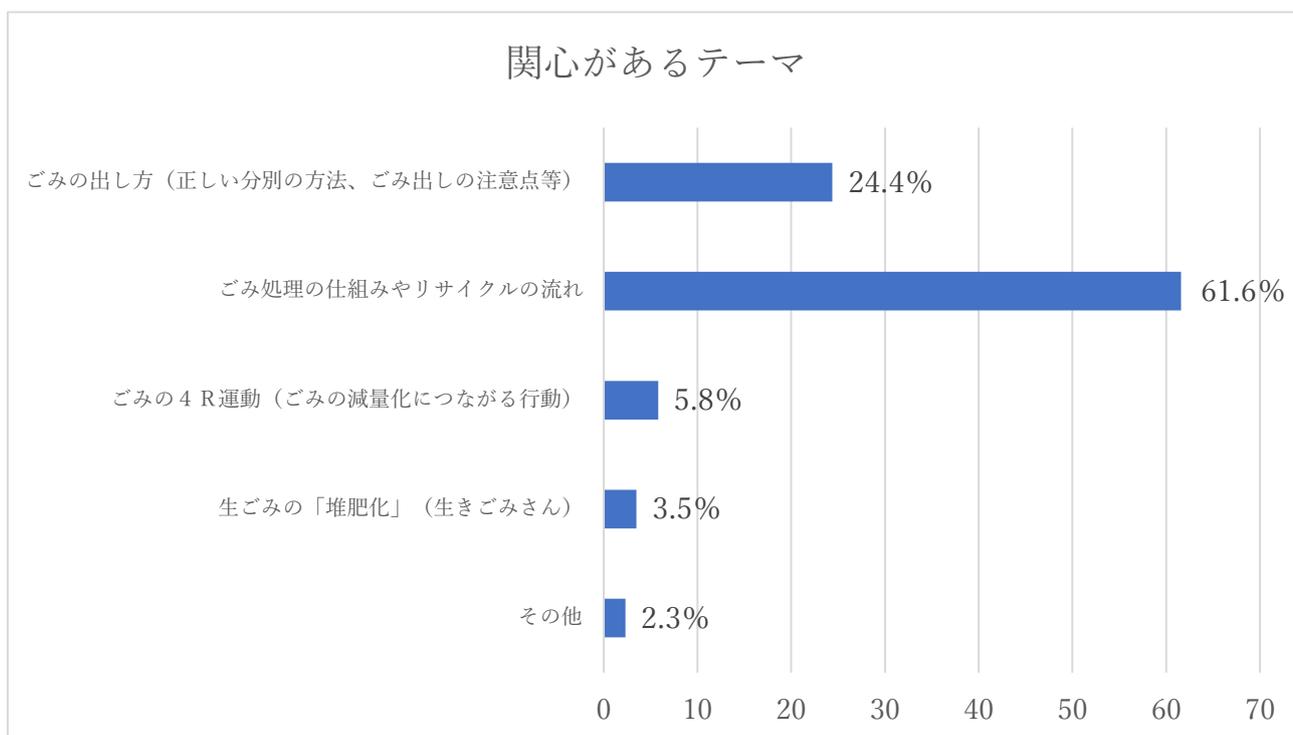
「古紙・古布リサイクルの行方について」が54.7%と最も割合が高く、次いで「古紙・古布リサイクルの方法について」の割合が47.7%であった。



問 4 ごみ減量化・リサイクルを進めるために、ごみの4R 運動の普及に意欲的な方を「4Rアドバイザー」として登録し、市の主催する出前講座での講師やイベントへの出務などをしていただいているが、知っているか。「知らない」が67.4%と最も割合が高かった。

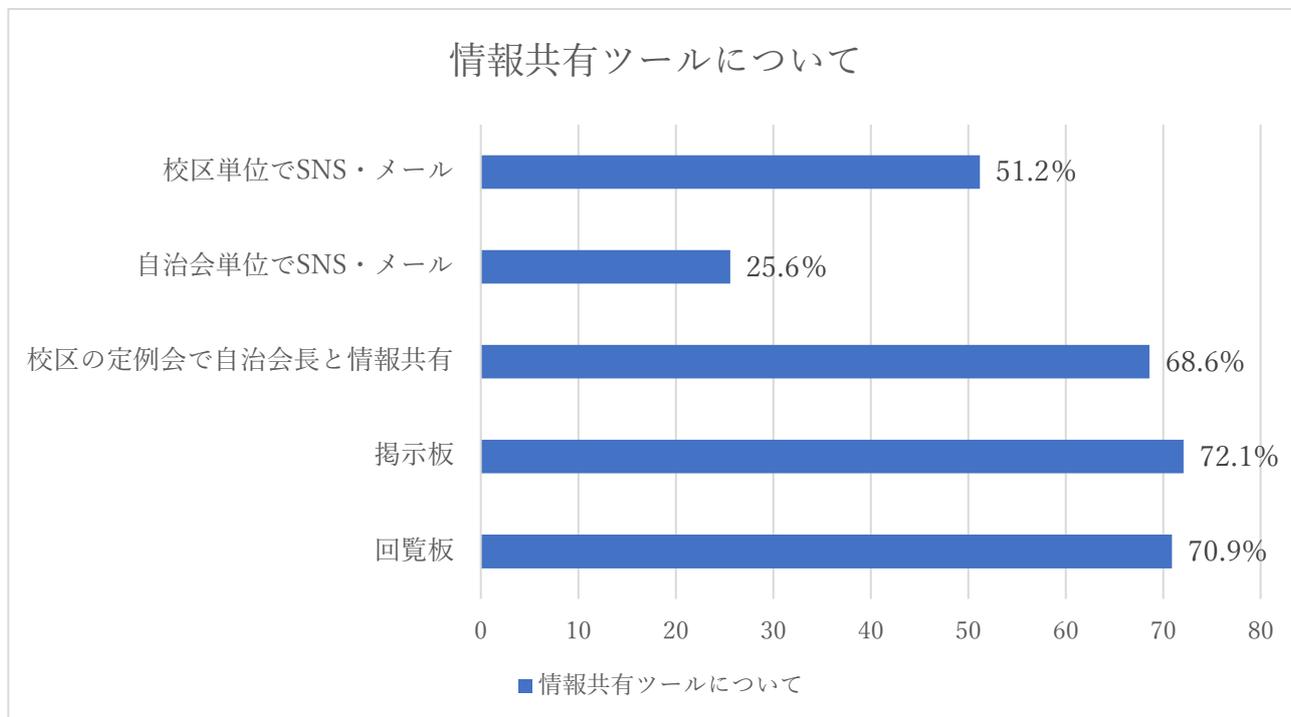


問 5 ごみ減量に関する情報を共有していただくために、ごみ減量化推進員様へ市が作成するニュースの配布・配信を検討しているが、どのようなテーマに関心があるか(複数回答可)。「ごみ処理の仕組みやリサイクルの流れ」が61.6%と最も割合が高く、次いで「ごみの出し方(正しい分別方法、ごみ出しの注意点等)」の割合が24.4%であった。



問 6 ごみの減量のため、ペーパーレスを推進しているが、校区や自治会での情報共有ツールについてはどうか。(複数回答可)

「掲示板」が72.1%と最も割合が高く、次いで「回覧板」の割合が70.9%であった。「校区の定例会で自治会長と情報共有」も68.6%と上記2項目に近い割合であった。



問 7 令和6年6月にごみ減量化推進員設置要綱を改正し、ごみ減量化推進員の定数は「単位自治会に1名」から「校区に1名以上」に変更されたが、今後のごみ減量化推進員の推薦人数についてはどうか。

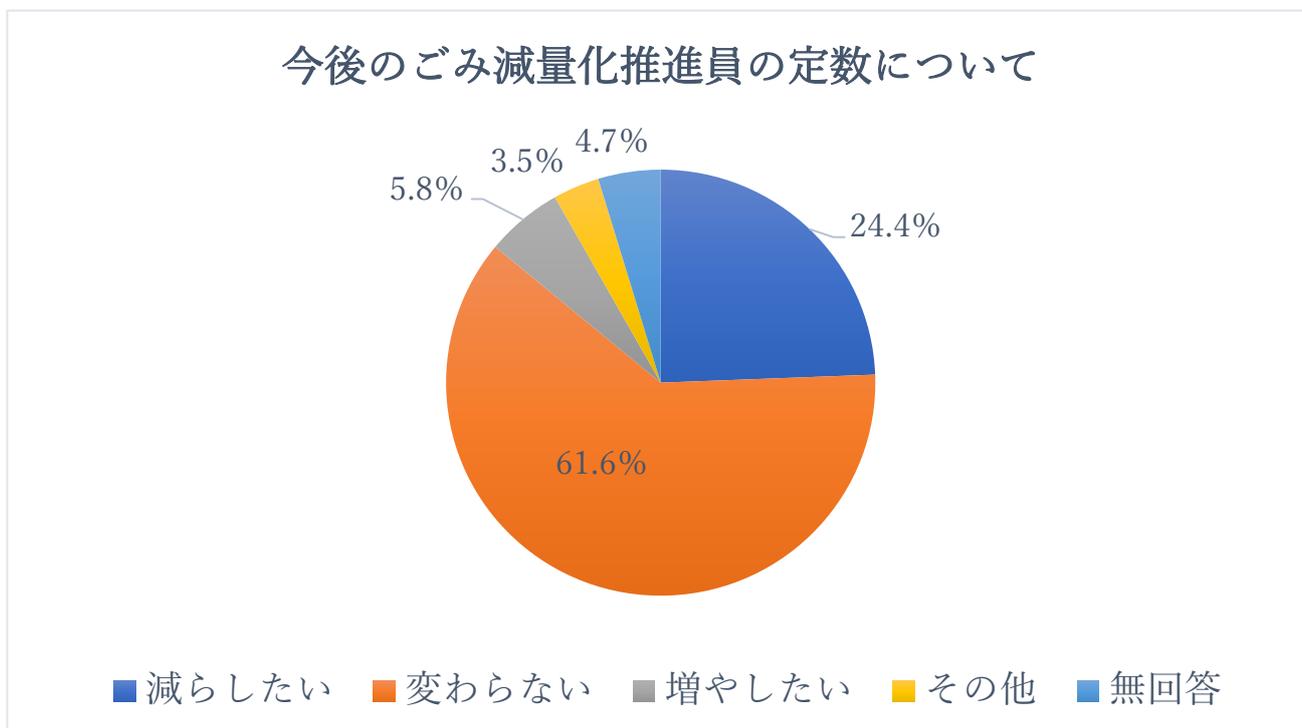
「変わらない」が61.6%と最も割合が高く、次いで「減らしたい」の割合が24.4%であった。

※以下回答理由

「減らしたい」の理由:負担軽減、担い手不足、具体的な仕事がない。

「変わらない」の理由:現状維持したい、単位町会に1名が良い。

「増やしたい」の理由:校区で1名だと他人任せになる、負担が減る。



意見・要望

- ・乾電池・小型家電の捨て方が分かりにくい
- ・リサイクルするメリットについて金額等を使って分かりやすく教えてほしい

まとめ

- ・対象者 93 名のうち、回答者は 86 名であり、回答率は 92%であった。
- ・推進員の主な活動は集団回収の実施、本市が作成する啓発用ポスターやチラシの掲示・回覧・データ配信が多く、直接的な紙ごみの削減と合わせて減量化・資源化に関する本市の情報を市民へ共有する役割を担っていることが分かる。
- ・令和 7 年度ごみ減量化推進員向け講座は紙類のリサイクルを題材とする予定なので、関心が高かった古紙・古布のリサイクルの行方・方法を中心に参加者へ周知する。
- ・校区単位(各自治会長と)で SNS・メールを活用して情報共有を行っている校区が 5 割以上あること、本市が紙ごみ減量のためペーパーレスを推奨していることを鑑み、地域の実情に応じてごみの減量化・資源化に関する情報を電子データで共有できるように発信手法を見直し、電子データの受け取りを希望する推進員に対しては、当課作成の推進員ニュースをメールで送付していくことが望ましい。